

アメリカに留学してから約2か月が経ちました。初めは不安もありましたが、新しい発見やまあ美がたくさんあり、毎日が刺激的です。本報告書では、学習面および生活面での経験を中心に報告いたします。

【学習面】

9月から本格的に講義が始まり、毎日が新しい学びに満ちています。講義は少人数体制で行われるため、先生やクラスメイトとの距離が近く、質問しやすい環境が整っています。先生方は常に親身でフレンドリーに指導してくださり、単に言語の四技能(読む・書く・聞く・話す)を鍛えるだけでなく、アメリカの文化についても幅広く学ぶ機会を得ています。授業の中では、ハンドサインや日常的なスラングなど、教科書には載っていない生きた英語を知ることでもでき、大変貴重な機会となっています。

また、授業は受け身の姿勢ではなく、積極的な参加が求められるため、常に集中して取り組む必要があります。学生たちの発言も非常に活発で、議論を通じてお互いに刺激を受けながら学ぶことができます。講義では、まだ時折先生の話すスピードについていけない場面もありますが、その際には質問をすれば丁寧に説明していただけるため、不安を感じることなく授業に臨めています。

課題に関しては、量は適切であるものの内容はやや難しいものもあります。特に、英語の書籍の読解課題には苦勞しています。現在はサスペンス系の物語を教材として読み進めており、物語文特有の表現や文体に戸惑いながらも、少しずつ理解が進むことで達成感を得ています。講義では、読んだ内容を何も見ずにクラスメイトや先生に詳しく口頭で説明する課題も課されており、理解力と表現力の双方を鍛える良い機会になっています。

また、講義や課題においては、わからない単語があっても辞書を使うことが禁止されており、文脈や単語の形から意味を推測する力が求められています。この取り組みによって、自分の英語力で考え抜く姿勢が身に付き、語学力の向上を最も強く実感しています。

全体を通じて、英語の四技能が少しずつですが確実に伸びてきていると感じています。今後も講義への積極的な参加と課題への取り組みを通じて、さらに語学力と理解力を高めたいと考えています。

【生活面】

9月は様々なイベントや活動を通して人とのつながりが深まり、学びと発見に満ちた1か月となりました。生活にも少しずつ慣れ、日々の生活の中で自分の成長を実感しています。

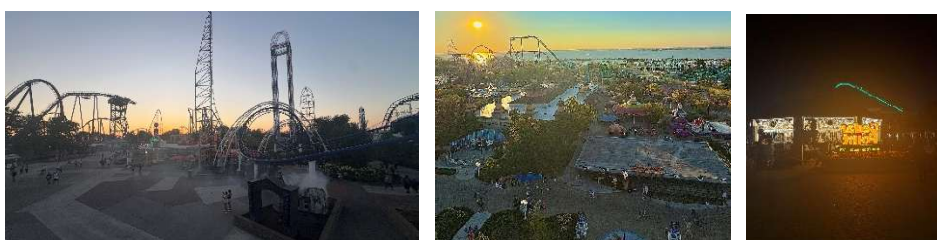
月初めには、「Kake Festival」に参加しました。これは、Kake Program という制度でアメリカを訪れている日本の大学生たちと共に現地の学生たちに日本文化を紹介するというイベントです。私はちぎり絵のブースを担当し、想像以上に多くの学生が訪れてくれました。椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりに驚きつつも、日本文化に興味を持ってもらえることが嬉しかったです。個々の作品制作に加えて、「全員で一つの桜の木を作る」という私の提案が実現し、完成した瞬間は本当に感動的でした。この経験を通して、言葉の壁を超えて心が通じ合う喜びを感じました。



また、Choir（合唱団）の集まりにも参加し、先生の自宅で約 60 人の生徒と食事やゲームを楽しみました。アメリカの家庭的な温かさを感じ、仲間との絆もより深まりました。11 月には初めてのコンサート出演が控えており、英語・ラテン語・韓国語の曲を練習しています。難易度は高いですが、言語や文化を超えて音楽でつながることに大きなやりがいを感じています。



休日には、念願の Cedar Point に行きました。アメリカでも有数のとても大きな遊園地で、絶叫マシンが多いので絶叫好きの私にとって大満足の日でした。ハロウィン仕様の飾りつけもすでに施されており、カメラのシャッターをひっきりなしに押していました。観覧車やゴンドラから見た、遊園地全体が夕焼けに染まった景色は忘れられません。大自然とエンターテインメントが融合したアメリカらしい体験でした。また長期休暇の際に訪れたいです。



また、友人たちと映画「鬼滅の刃」を見るために初めてアメリカの映画館に行きました。形式的に日本と異なるところはほとんどなかったです。英語字幕を見ながら、「日本語ではこう言うけれど、英語だとこう表現するのか」と新たな発見が終始あり、語学学習にもつながりました。映画後、友人たちは皆感動して感想を述べあっていたり、中には涙を流している人もいました。私は改めて日本のアニメ文化を誇りに思いました。その他にも、ハウスメイトの演劇を観に行き、彼女の表現力に心を打たれました。友人の努力や才能を間近で感じ、自分も何かに真剣に取り組みたいと刺激を受けました。



さらに、日韓学生でご飯会を開き、日本料理と韓国料理を現地の学生たちと一緒に作りました。私は唐揚げ、手巻き寿司、味噌汁を担当しました。今まで開催したご飯会の中でベストな出来だと皆褒めてくれたので嬉しかったです。日本食の魅力を改めて感じると同時に、異文化交流がいかに豊かで温かいかを実感しました。それに加えて、Nara Ramen と Tensuke Ramen にも行き、日本の味を懐かしみました。海外で食べる日本食は特別に感じられ、心がほっとしました。



日常では、Pickleball を週に 4 回ほど楽しんでいます。運動を通して自然と会話が生まれ、友人の輪が広がりました。スポーツ観戦も積極的に行っており、サッカーやアメフト、バレーの試合を観ました。どの競技も迫力があり、特にアメフトの試合は熱気に満ちていて印象的でした。これまで観戦した試合は全て勝利しており、改めてフィンドレー大学がスポーツ強豪校であることを実感し、大学全体の一体感に感動しました。夜には友人たちと Switch でマリオパーティやマリオカート、カードゲームをするのが日課となっており、笑いの絶えない時間を過ごしています。



この1か月を振り返ると、文化や言語の違いを超えて多くの人と関わり、自分の世界が大きく広がったと感じます。今後も出会いと学びを大切に一日一日を充実させていきたいです。

本報告書についてご質問、お問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

itos1@findlay.edu